



古道を訪ねて ⑪

箕面街道・中の坂付近

大坂（阪）と池田・能勢を結ぶ「能勢街道」は、江戸時代には多くの旅人や物資を運ぶ人々で賑わいましたが、その能勢街道から豊中市の曽根付近で分岐して箕面に向かう旧道があります。この道は一般的に「箕面街道」と言われていますが、箕面の人、大坂へ向かう道でしたので「大坂道」と呼んでいました。

明治43年、「箕面有馬電気軌道株式会社」により、箕面・大坂間が鉄道で結ばれるまでは、大坂と箕面を結ぶメインストリートとして、多くの人々が通行した「箕面街道」を箕面から大坂へ向かう形で、数回に分けてご紹介いたします。

滝と紅葉、多くの信仰を集めた箕面寺（現在の瀧安寺）が所在することで古くから全国的に有名であった箕面山の入口が「中の坂」と呼ばれる傾斜の急な坂道です。箕面寺を開基した「役行者」が老翁と出会い、奥に瀧があることを教えられた場所として瀧安



▲洗い場跡

寺所蔵の「箕面寺秘密縁起」が伝えるのがこの坂です。箕面駅の改札から80mほどしか離れていないのに、この坂の下に行くと、突然タイムスリップしたかのような、歴史的な風情を感じることができま

す。道の脇にある、箕面川から引かれた水を利用した昔の共同の洗い場の跡や、白壁造りの建物、古びた道標が一体感を成して風情のある景観を造り出しています。

道標は、一

時期「勝尾寺」

に滞在してい

た著名な念仏

聖「徳本上人」

直筆の「南無

阿弥陀仏」の

六字名号と、

各地への方向

に四面が刻ま



▶ 拓本



れた江戸時代後期のものです。写真の拓本は道標の北面のものです。丸味を帯びた六字名号と「徳本」の名前の下に、右から「すぐ大坂」「右中山」「左京」と刻まれています。坂の上から下って来た旅人が、十字路の所で道に迷わないように方向と行き先を示しています。『すぐ』は「近く」という意味ではなく、真っ直ぐを示すものです。

次号からこの「すぐ」に従って南へ進んで行くことにします。